

2015年訪中団報告

笑顔で出迎えてくれた社員さん！学生さん！

～コミュニケーションの先に未来がある

(福建省廈門市、10月31日～11月4日、参加者20名)

2015年日中経済交流研究会の訪中先は福建省廈門市でした。予約していた直行便がキャンセルになり往復北京経由になり移動に長時間必要になったり、金門島へのフェリーチケットが購入できず、訪問先が急きょ変更になるアクシデントなどが続発。廈門の視察先は、今回の訪中団をアテンドしてくれた廈門興和洋傘（株式会社カムアクロス）さんをはじめ、石材加工工場、子ども服縫製工場、印刷工場、物流センター、金属加工工場、法律事務所、学校と盛りだくさんでした。昨年の訪中団では、中国から去っていくとどうする企業を見ましたが、今回は中国に溶け込んでいる素晴らしい企業訪問になりました。



■ 日本語専攻の中国人学生と

近年、訪中団は企業視察だけにこだわらず、日本語を学んでいる中国の学生との交流を深めています。今回も、廈門城市職業学院（応用外国語学部）を訪問しました。日本で言うと、大学と専門学校の間際に位置するような3年制のビジネスに特化した学校です。日本語を学んでいる50名以上の学生が、畳の匂いのする教室で我々を迎えてくれました。

担当教授の陳先生と豊田訪中委員長のあいさつののち、学生と同友会のメンバーは初対面のぎこちなさと気恥ずかしさが残る中、日本語中国語英語を駆使して「家族は？日本のどこが好き？日本の何に興味か？」など話の花が咲きました。やがてお互いに打ちとけだし、あちらこちらで歓声が上がりました。

■ 日本人経営者と直接コミュニケーション

一段落すると、来春より社会人となる3年生が、自分たちの勉強の成果を4組に分かれて劇という形で披露してくれました。我々も「日本語が流暢に話せている。正確な日本語である。もっとこのように表現すれば自然になる」などということの評価するチェックシートを渡され、真剣なまなざしで劇を見ました。日本人の前で日本語で演じるのですから、緊張しているよう様子。その中でも、精一杯チームごと役割を分担してチャレンジしてくれました。

■ 写真を撮ってアドレス交換

緊張の様子がガンガン伝わってくる劇が終了すると我々の出番です。この学校を訪問先に加えてくれた今中社長（カムアクロス）から「細かい文法を意識することはない。相手の目を見て自信を持って語れば相手に伝わる」と大きな体に似合った大きな声で指摘がありました。「現在、過去、未来形を正しく使うことがポイント」「社会人のマナーとして敬語の使い方」と我々でも難しい指摘も。留学経験のある坂元社長（坂元鋼材）から、「外国語をひとつ学べば、新しい世界がさらに開けます。頑張ってください」と中国語で。学生たちは、中国語で流暢に語る坂元社長に大きな歓声をあげ、憧憬のまなざしで見っていました。

これらの言葉で一気にみんなの距離感が近くなりました。写真の輪やアドレスの交換があちらこちらで見られました。紙面が僅かですので、書ききることはできませんが、こんな訪中を経験した会員が12月に自分の言葉で報告します。学校でも今中さんの会社でも経験しましたが、お互いが目と目を見て語り合うからこそ、未来が見えるのです。訪中報告例会に皆様、ご参加ください。

12月 訪中報告例会の案内

日時：12月10日 18時30分より
場所：ホテルサンホワイト 地下鉄谷町4丁目4番出口より徒歩1分